

## 育児休業に関する体験記5

30 代 37 日間取得

<p>① 家事 ・ 育児 について</p>	<p>1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか お互いやりたい/やりたくないこと、出来そう/出来なさそうなことを話し合い、子供に直接触れること全般を妻、生活するための環境整備や家事全般を私が行った。</p> <p>2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について 家事全般を行いながら最初は見守り程度だったが日を迫うごとにおむつ交換や寝かしつけなどできることを増やしていった。</p> <p>(妻 記載欄) 休業取得者の家事・育児の参画の状況について 身体がまだ辛く気持ちも不安定な時に、自分でするのが難しいことを担ってくれ、助かった。子どもの日々の変化や子育て、子供との生活をどのように作るかを話し合うことが出来、出産前から「自分がしなきゃ」と思っていた気持ちが少し軽くなった。</p>
<p>② 仕事 について</p>	<p>1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか 直前まで育児休暇取得に悩んだがチームメンバーが後押ししてくれて取得。業務の棚卸を行い、チーム内で近い業務を担当しているメンバーに OJT で引継ぎ。引継ぎが難しい属人的業務は休業期間が1ヵ月だったため引継ぎは行わず業務を止めた。</p> <p>2. 評価・反省 もっと早く決断、引継ぎすればよかった。休み中も細かな業務連絡はあったがコミュニケーションツールの活用でお互い大きなストレスなくやり取りできた。また休業中の出来事もツール活用で把握することができスムーズに復職ができた。</p>
<p>③ 自由 記述 (400 字 程度)</p>	<p>(取得者 記載欄) (例：育児休業取得の経緯、育休を終えての所感、周囲の反応) 妊娠当初は育児休業を取得する予定はほとんどなく、妻との会話でも「取得したらいいかもね」といった程度だった。しかし、出産を終えて新生児と過ごす数週間を経ると、「肉体的よりも精神的にこれは大変だ!」と実感し、取得を決意。</p> <p>第一子のため、分からないことや不安なことが多かったが、その都度話し合ったり、ネットで検索したりしながら一緒に試行錯誤し、解決できたことで自分事に捉えることができて本当に良かったと思う。また、公的な制度についての説明と聞き、活用することで、職場復帰後も様々な制度や支援を利用しながら育児をしていくイメージを持つことができ、非常に良かった。</p> <p>正直、生まれる前も、生まれた後も子供がいる実感や、子供への感情をあまり持つことができなかった。しかし、育児休業を経て子供に関心と慈しみを持つことができ、今では可愛くて仕方がない。</p> <p>1ヵ月と短い期間だったが、育児や母(妻)の大変さや大切さを知り、自身の価値観を変え、視野を広げる貴重な時間となった。</p>

